

【解題】「総合地域政策懇話会」と「地域懇ニュース」について

坂井, 智明
元福岡市職労執行委員

<https://doi.org/10.15017/6781048>

出版情報：奥田八二日記研究会会報. 10, pp.377-379, 2023-03-31. 奥田八二日記研究会(九州大学大学
文書館内)
バージョン：
権利関係：

【解題】

「総合地域政策懇話会」と「地域懇ニュース」について

坂井 智明

2019年の1月下旬、闘病中の福留久大先生（奥田八二日記研究会会長・九州大学名誉教授）からメールがありました。

奥田氏が残した重要な実績の一つに「総合地域政策懇話会」の設立とその運営があり、その会が毎月発行した「地域懇ニュース」は貴重な記録なので、その総目次を作って「奥田八二日記研究会」の会報に収録すれば、奥田氏の重要な業績の記録が埋もれることなくきちんと残るので意義は大きいと思う、という内容でした。

さっそく県立図書館で調べたところ、「地域懇ニュース」は№1（1978年9月）から№94（1986年12月）までありました。

奥田氏が県知事選に初当選したのが1983年4月。よって知事に就任する4年半前から就任後3年半過ぎまでの8年余り続いた「地域懇ニュース」であり、奥田氏の貴重な足跡といえるでしょう。

これらのニュースを見た範囲ですが、「総合地域政策懇話会」と「地域懇ニュース」について以下解説させていただきます。

「総合地域政策懇話会」は、奥田氏ほか17人が呼びかけ人となって1978年8月7日に発足しました。この会では毎月講演会を開催し、その内容を中心として毎月「地域懇ニュース」を発行するという手順になっています。

会の住所は「九州大学教養部奥田研究室気付」となっており、発会式では奥田氏が冒頭の挨拶を行っています。また「地域懇ニュース」の№6（1979年2月発行）では、「事務局の願い」として奥田氏が「代表幹事・事務局担当」の肩書で筆をとってあります。事務局担当は、講師の招聘やニュースの編集など大変苦労が多かったと察せられますが、福留先生のご教示によりますと、奥田氏は教養部長を3期果たされた後だったので、重責の軽減によってこの会の発足・運営に力を注がれ、名実ともに主導されていたものと思われます。

さて、この会が発足した1978年8月というのは、どういう時期であったのでしょうか。

3年前の1975年4月の知事選では亀井現職知事が弁護士の内田茂雄候補を大差で破り3選を果たしていますが、亀井知事が4選を目指す選挙（1979年4月）まで1年もない時期でもあります。

「地域懇ニュース№1」には「発会に際して」として奥田氏の挨拶文が載っていますが、奥田氏もその一員であった「明るい民主県政をめざす学者、宗教者、文化人の会」が1975

年の県知事選に際し候補者擁立に深くかかわっており、次回の県知事選候補についてはその会にお任せするとして、もっと別の会を作ろうと思ったことが書かれています。

会の目的としては、「非専門領域の人々の鋭い直感を専門意見にかみ合わせるような場を」、「全住民にかかわる深刻な問題が山積しており、...在来の権威による政策に流されてしまうことがあまりにも多い...。...何が正しい対案なのかを考える癖をつけたい...。そういうことができるならば、この懇話会は成功」と述べられています。

また会の呼びかけ文では、「主義主張をこえた検討をすすめ、...各界に提言」とあり、奥田氏の従来の政治的スタンスである社会党、社会主義協会、社会問題研究所に限定しない幅広いスタンスを目指されているようで、そのことは「地域懇ニュース」の総目次のテーマと筆者、そして歴代の役員を見れば明らかだと思います。

「地域懇ニュース」の内容は、その前に開催された講演と講演後の参加者との質疑応答を文章化したものです。単に奥田氏が知ってある面々に原稿を依頼し、書いてもらったのを載せるだけでは人々の交流は生まれません。奥田氏が自らあるいは知人を介して幅広く当たって講師を依頼されたものと思われまます。講演と質疑応答は、時間もお金も手間（会場代や会場設営など）もかかるのですが、そのぶん生きた交流が生まれ広がっていったものと思われまます。現に私が作成した総目次を一つ一つ丁寧に見られた福留先生は「これらの人々に連絡し、講師を引き受けてもらった奥田さんの人脈の広さにも一驚いたしました」と感想を述べられています。

話は戻りますが、この会が発足した1978年8月は、いわゆる全国的に革新知事を生み出した社共共闘にひび割れが始まっていた時期でもありました。

1967年、社共の推薦で美濃部東京都知事が誕生。1975年は3選目の選挙でしたが、同和对策事業特別措置法の評価をめぐる社共共闘が崩れ、美濃部氏は3選を辞退する意向を示したものの、石原慎太郎氏（自民党推薦）が立候補することになり、急遽立候補を決意。接戦であったが、どうにか3選を果たしました。

大阪府知事選は1971年に社共の支持で黒田氏が当選。しかし1975年の2期目の選挙では社共共闘が崩れたものの、共産党の単独推薦で当選。

こういう全国的な状況にあって、従来の社共共闘の枠だけでは、あるいは社会党の枠だけではとても亀井県政を変えることはできず、奥田氏としてはもっと幅広いネットワークを目指してこの「総合地域政策懇話会」を立ち上げられたのではないかと想像しています。

現に講演者（「地域懇ニュース」では筆者）の面々や役員名簿（役員改選は毎年行われ、その名簿はニュースに掲載されています）をみますと、私が所属していた福岡市職員労働組合の重要ポストにあった人などが複数見られます（福岡市職労は社会党主流の自治労の中では反主流派で共産党もしくはその支持者が多かった）。

また講演者には演劇関係者、版画家、華道家、画家、詩人、作家、野鳥の会、新聞社社長、情報誌編集長、自治会長、公民館主事、医師、農業改良普及員、会社社長、住宅・都市公団、

金融機関、家裁調停委員、県や市の職員など多岐にわたっています。

これらの講演者にはもちろん、会員や参加者にも、実質的な代表である奥田氏が丁重にかつ親しみをもって応対されたと察せられ、結果的には、亀井知事への対抗馬が見つからない最終段階で奥田氏に白羽の矢が立てられる一因に、また社共という従来の枠にとらわれない多くの支持者を獲得することになったものと思います。

さて、地域懇の特徴はもう一つあります。博物館の建設に熱心だったことであり、その中心が奥田氏であったことに間違いありません。毎月発行される地域懇ニュースにおいて、1979年8月7日には「地域に根ざした博物館を考える」と題した別冊が発行されており、奥田氏をはじめ15人の会員が筆をとっておられます。また地域懇ニュースはNo94まで発行されたのですが、奥田氏は別冊を含め9件寄稿されていますが、そのうち5件は博物館に関するものであり、いかに博物館建設に熱心であったかを裏付けています。

ということで、今回は奥田氏の筆に寄る創刊号の冒頭に掲載された「発刊に際して」と、博物館に関する5件を転載しています。

なお最後に、闘病中であって、このような貴重な記録を発掘する機会を与えていただいた福留久大先生に感謝申し上げます。しかしながら完成するまえに亡くなられたことを無念に思うとともに、ここに校了したことをご霊前にご報告申し上げます。